広報津
●毎月1日・16日発行
●編集・発行 津市政策財務部広報課 〒514-8611 西丸之内23-1
☎229-3111 FAX229-3339
●印刷 寿印刷工業株式会社

歴史散歩

専修寺釘貫門と石橋

釘貫門と堀に架かる石橋

一身田には、寺内町と呼ばれる古くからの町があります。かつて寺内町は専修寺を中心とした自治都市として栄え、町を囲む形の環濠は今でもほぼ完全な形で残っています。

その寺内町の中心である専修寺の南面には、正門である巨大な二階建ての山門があります。その山門前を東西に走る道を隔て、南に延びる石畳のある道を進んでしばらくすると、道幅を狭めるように両側に釘貫門と呼ばれる塀のような瓦葺きの建物があります。さらにその先の堀には、小さな石橋が架かっています。

石橋は、専修寺とその子院のある寺内(寺領)と、寺下(町屋)を隔てる堀の上に架かり、緩やかな弧を描く橋板11枚から成る石造りの反り橋です。南側の橋詰めでは、高欄が親柱から水路に沿って折れ曲がっています。建設時期については、「高田史料」第三巻の宝暦10(1760)年編に、「三月八日、山門前石橋成ル、初渡式」との記述があります。

石橋

その石橋の内側にある釘貫門は、柱を立てて並べて横に貫を通しただけの簡単な門です。現在は、この山門前の釘貫門が残るのみですが、宝暦年間(1751～1763年)の木版画には他に3カ所の釘貫門(矢来)が描かれています。当時の姿をとどめる釘貫門は、現存する貴重な例として、石橋とともに津市の有形文化財(建造物)に指定されています。

毎年1月のお七夜や11月の一身田寺内町まつりでは、この辺りを多くの人々が訪れ、にぎわいを見せます。当時のにぎわいと重ねながら、一緒に歴史を感じてみてはいかがでしょうか。

●市財政収入の一部に寄与することを目的とし、表紙に広告を掲載しています。掲載している広告内容については、津市が保証しているものではありません。